

第86回 全国書道コンクール出品要項

左記のとおり硬筆コンクール作品を募集します。奮ってご応募下さい。

一、中学生・小学生・幼年

● 課題Ⅱ次ページ提出課題

● 用紙Ⅱ本会選定用紙

○ 幼・小一年……………四行用紙

○ 小二年以上……………五行用紙

● 用具Ⅱ幼年から小三まではえんぴつ

小四以上は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

一、出品料（一点につき）

会友 六〇〇円

中学～幼年 五〇〇円

一、出品締切り

平成二十六年七月二十五日必着のこと

一、送り先

509-5134 土岐市泉島田町一-三〇

大書心会全国書道コンクール係

一、審査

期日 七月三十日（水）

午前九時半から

会場 セラトピア土岐

三下第一・二会議室

一、審査員

会長・認定審査員・及び八十点以上出品の団体責任者に委嘱。

一、褒賞

大賞・準大賞・会友特選（以上会友作品を

対象とする）・会長賞※土岐市長賞※同教
育長賞※同市議会議長賞※中日新聞社賞・
大書心会賞・理事長賞・師範会賞・理事奨
励賞・特選・奨励賞・芽ばえ賞・優秀・秀作・
入選・佳作

（※印は申請中）

○ 全員に賞状、賞品を授与します。

○ 成績優秀な団体には、団体賞を授与しま

す。

一、団体出品

5点以上まとめて出品の場合は団体扱い

となります。特典もあり、その他出品目録

が必要となりますから大書心会事務局あ

てお申込み下さい。

▽支局・支部には、予め出品目録を郵送い

たしました。

一、表彰

本誌十月号誌上。特別賞入賞者の授賞式は

十月十三日（月・祝）に、ペン字展授賞式

とあわせて行います。

一、会長賞受賞者の特典

● 六段以下の受賞者は一階級昇格を認め

ます。

● 教育部四年生以上での受賞二回を含み、

通算三回受賞した場合は会友を認定しま

す。

※いずれも八月から昇格します。

一、特別昇級の特典
硬筆部一級以下の出品者は、全員一階級特
進を認めます。（申請者のみ）

一、その他

○ 一人何点でも出品できますが、特別賞受

賞は一人一点とします。

○ 出品料は為替か小為替にして作品と同

封し書留で送るか、現金書留による送金

に限りません。（振替、その他は不可）

○ 作品は月例競書と同封してもよろしい

が必ず混同しないよう、明確に区別して

下さい。

○ 特別賞入賞作品は、十月十日（金）～十

月十三日（月・祝）のペン字展において

展示いたします。

〔注〕

※一般・高校生については、十月十日（金）

～十月十三日（月・祝）にペン字展を開催

します。奮ってご出品下さい。詳細につい

ては来月号に発表します。

▼原寸大手本（コピー）

一枚……………五〇円（送料実費）

▼選定用紙（四行・五行用紙とも）

一冊……………七〇円（送料実費）

※ご注文の節は、「四行」または「五行」

とはっきりご指定下さい。

第86回コンクール課題 (テーマ=むし)

幼年 (えんぴつ)

か	と	ち	せ
ぶ	ん	よ	み
と	ぼ	う	
む			
し			

小二年 (えんぴつ)

野	た	な	追	ち
原	く	の	っ	よ
に	さ	花	て	う
着	ん	が	走	ち
い	さ		っ	よ
た	い		た	を
	て		ら	
	る			

小一年 (えんぴつ)

は	え	あ	カ
こ	さ	り	も
ん	を	さ	ち
で		ん	の
る		が	

小四年 (ペン)

銀	日	た	く	夕
色	に	く	も	立
に	照	さ	の	の
光	ら	ん	す	あ
る	さ	の	に	と
	れ	水	付	
	て	玉	い	
		が	た	

小二年 (えんぴつ)

と	ぶ	み	野	お
ん	ん	つ	ば	池
で	ぶ	ば	ら	の
来	ん	ち	が	ま
た			さ	わ
			い	り
			て	に

小五年 (ペン)

準	今	選	せ	夏	
備	か	ん	み	休	
す	ら	だ	の	み	
る	本	の	観	の	
つ	を	で	察	研	
も	読		を	究	
り	ん			に	
て	で				
す					

小六年 (ペン)

フ	こ	文	大	世
ア	ん	学	変	界
ー	虫	作	優	中
ブ	記	品	れ	で
ル	」	と	て	読
の	十	し	い	ま
	卷	て	て	れ
	は			て
				い

中一年 楷書 (ペン)

昆	食	深	固	鋭
虫	べ	い	い	い
の	る	関	も	あ
口	物	係	の	ご
の	の	が	を	が
形	種	あ	か	必
は	類	る	じ	要
	と	に	る	だ
		は	に	

中二・三年 行書 (ペン)

昆	食	深	固	鋭
虫	べ	い	い	い
の	る	関	も	あ
口	物	係	の	ご
の	の	が	を	が
形	種	あ	か	必
は	類	る	じ	要
	と	に	る	だ
		は	に	

※「ペン」は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

※幼年から小四までは上二段めけて書いて下さい。句読点は省略します。

半切四分の一に書く(7)

締切り 七月二十五日(必着)



神谷葵水先生書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことです。その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×一七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕風裏聴松聲

〔大意〕風の中から松の枝を吹き抜ける風の音を耳をすまして聴く。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤濁も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て、表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べることが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に収めましょう。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×一七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フェルトペン・筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんので、どなたでも出品できます。ただし出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位は発表はしません。

準初段から六段まで

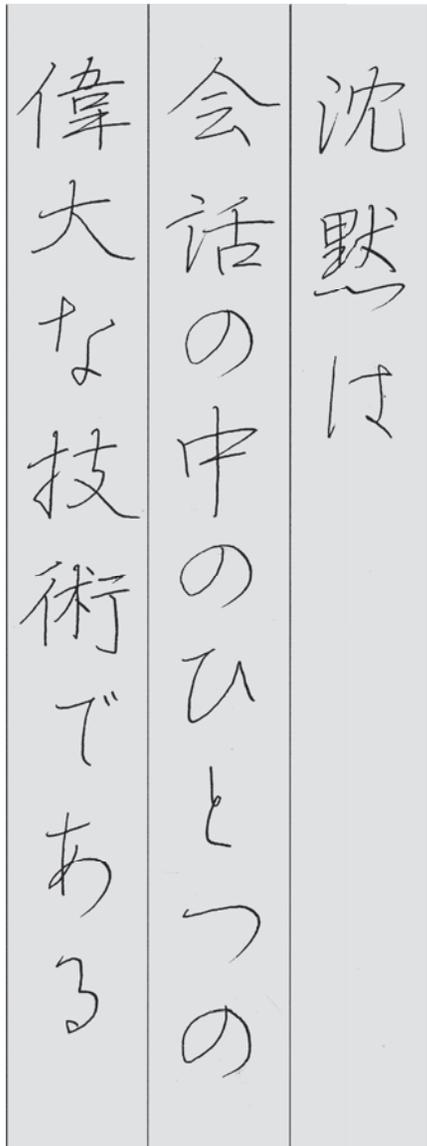
新入から1級まで

〔解説〕



◎形のみにとられない生気ある行書作品を書くためには、運ペンの速度、緩急の度合いを学ぶことが大切です。色々とペン使いを工夫してみてください。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆8月課題予告(行草または草書)
備えを以って時を待ち
時を以って事を興す
管子
- ▼教範・書範Ⅱ行書
- ▼師範Ⅱ楷書

★沈黙は…(書体Ⅱ行書)
ハズリット(三七〜三三〇)
イギリスの評論家・随筆家
会話の上手な人というと、立板に水のごとく弁舌なめらかな人というイメージがありますが、時には、無意味な会話より沈黙するほうが効果的な場合もあります。以心伝心、黙っていても通じるものはあるものです。話すのが上手な人は、黙る時も知っています。

◆8月課題予告(行書)
赤心を推して
人の腹中に置く
後漢書

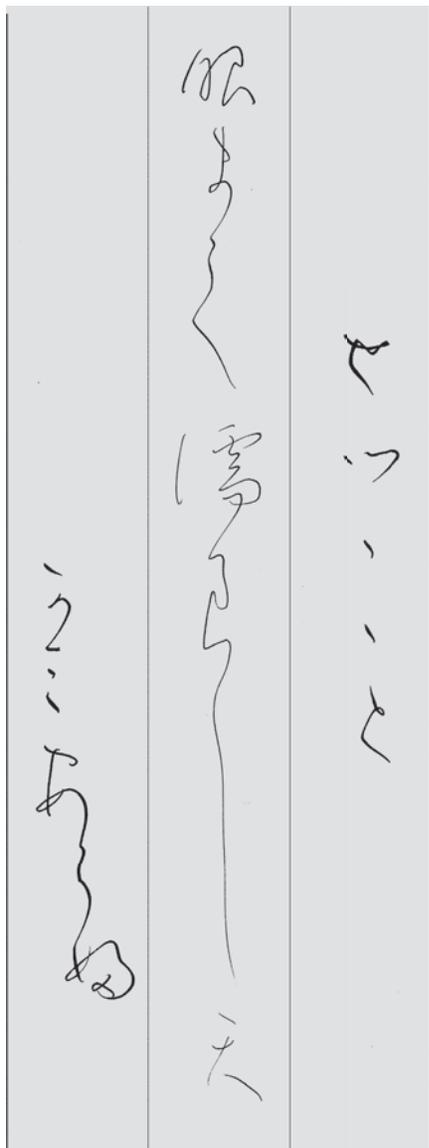
★多くの…(書体Ⅱ楷書)
アリストテレス(B・C三六四〜三三〇)
古代ギリシャの哲学者
顔が広く友人が多そうに見える人がいますが、実際にそうなのでしょうか。生涯を通しての真の友情とは簡単に育つものではありません。たとえ人数は少なくとも、どんな状況でも、お互いに強い絆で結ばれた真の友人を持ちたいものです。

一般部かな課題

締切り 7月25日(必着)

準初段から六段まで

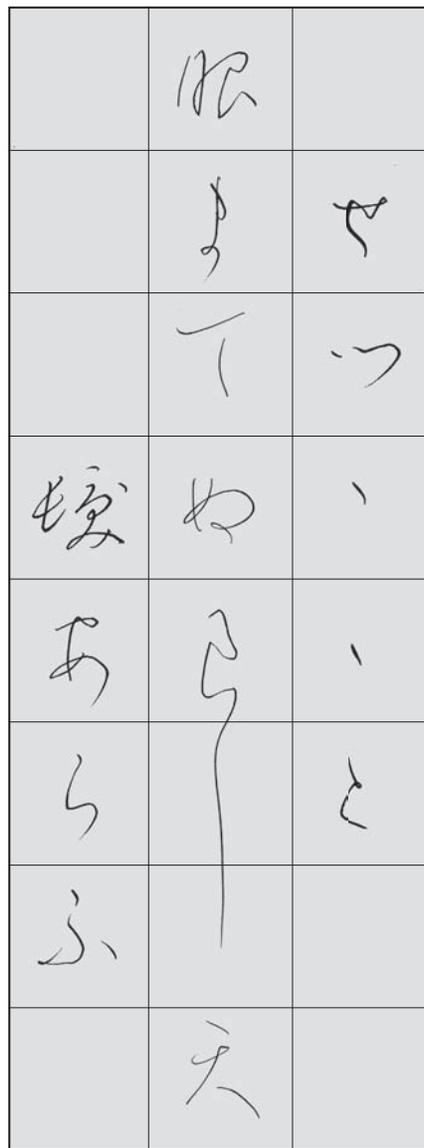
新入から1級まで



せつせつと眼まで濡らして髪洗ふ
川(洲)

せつせつと眼まで濡らして髪洗ふ
川(洲)

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



大宮春兆書

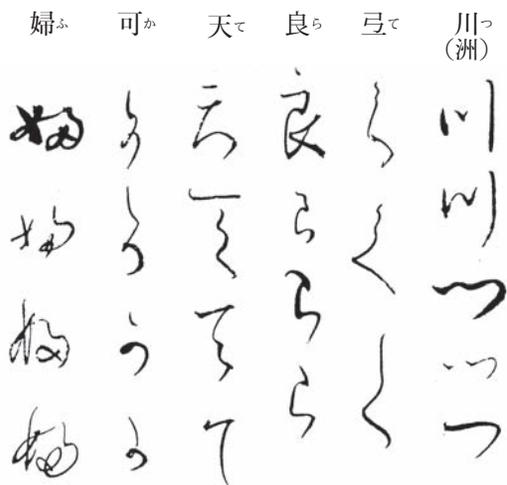
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

大宮春兆書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



〔古筆参考〕

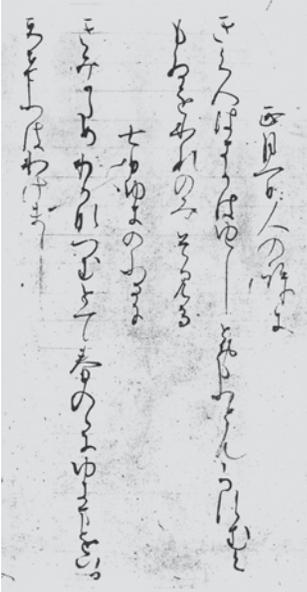
せつせつと眼まで濡らして髪洗ふ
(野沢 節子)
〔句意〕暑い夏の一日の汗や汚れを落とすべく心をこめて、眼まで濡らして、せつせつと髪を洗い清めることである。

◆8月課題予告
暗く暑く大群衆と花火待つ

(西東三鬼)

〔古筆参考〕

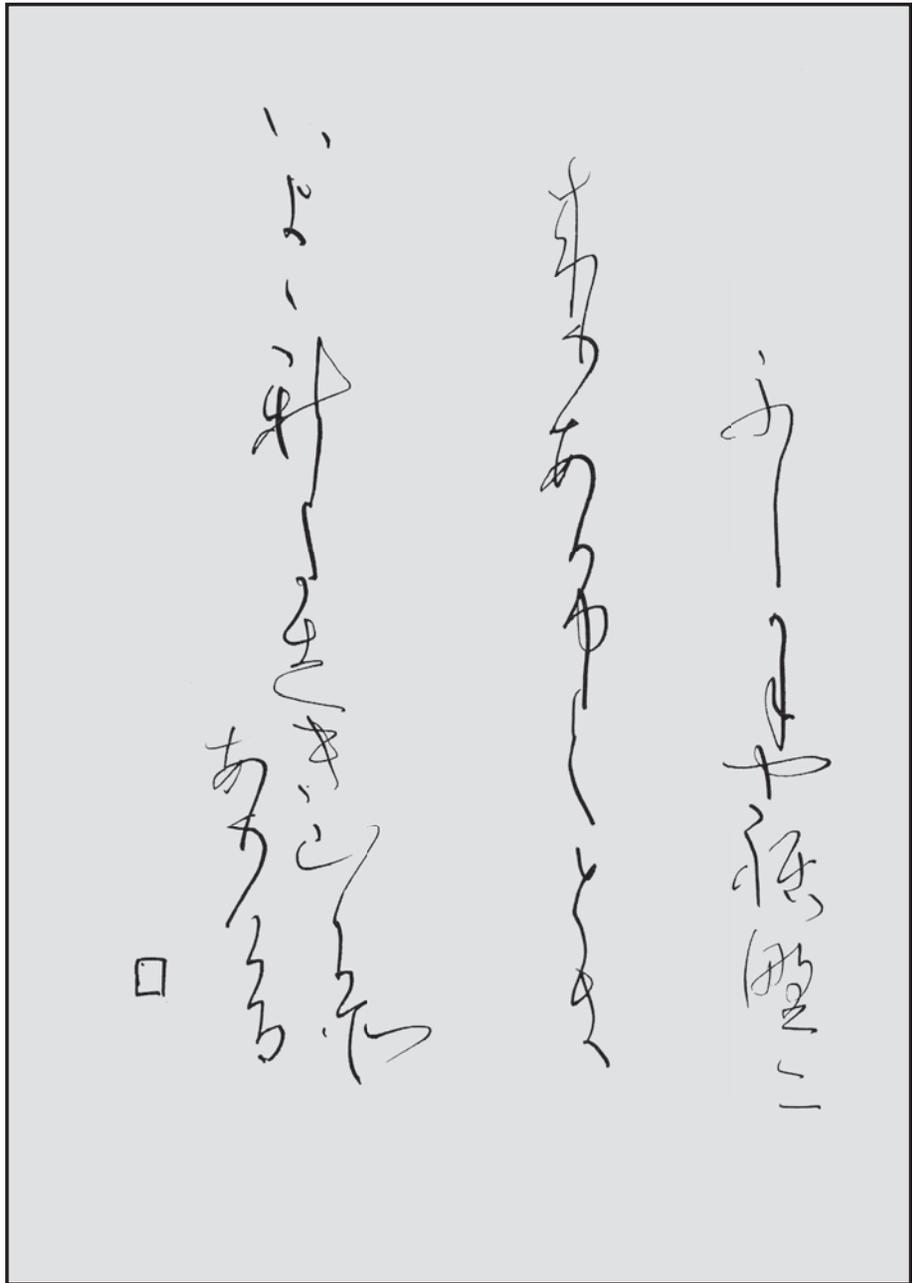
いずみしきぶぞくしゅうぎれ
和泉式部続集切



正月一日人の許に
きく人はきかばゆしとおもふとんかすむく
もるをわれのみぞみる
七日ゆきのふるに
きみがためわかかなつむとて春のくにゆきまをいか
だけふはわけまし

締切り 七月二十五日(必着)

築瀬舟香書

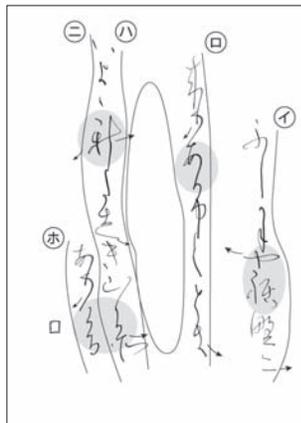


富士が嶺や裾野に來り仰ぐとき
いよよ親しき山にぞありける

〔歌意〕富士の嶺よ、お前の裾野まで
やって来て、私の真上に聳えているお
前の姿を仰ぎ見ると、遠くから眺めて
いた今までもまして、親しい山なの
だなあと思えてくるよ。

〔出典〕名歌即訳 若山牧水

〔解説〕



- ・ 行のふくらみを見る。
- ・ ①と②、①と③、①と④
- ・ ②と③、②と④、③と④
- ・ それぞれ呼応。
- ・ ● 行の中の密の動き大切。
- ・ ↙ の方向(指向性)大切。
- ・ ○ 作品の中の間大切。
- ・ 運筆のリズム大切。

◆ 8月課題予告

ひんがしの朝焼雲はわが庭の
黍の葉ずゑの露にうつれり

締切り 7月25日(必着)

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイディアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな暑中見舞い状をお待ちしています。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

暑中お見舞い申し上げます
猛暑にもめげず、茄子やピーマンは元気もりもり。
私もつば広の帽子をかぶり畑仕事に精を出しています。
お陰で野菜沢山の食事で元気です。採りたての野菜は如何ですか。

暑中お見舞い申し上げます
猛暑にもめげず、茄子やピーマンは
元気もりもり。私もつば広の帽子を
かぶり畑仕事に精を出しています。
お陰で野菜沢山の食事で元気です。
採りたての野菜は如何ですか。

横書き課題

お 尾 郷 翠 光 書

七夕伝説は、奈良時代に中国から
伝わり、文学の題材にもなった。

徳島県阿波市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月25日(必着)

故
能
使
地
平
天
故能使地平天

故能使地平天

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）
〔読み〕故に能く地平天（成、）

準初段から師範まで

奥村暢之臨

風清人倚樓

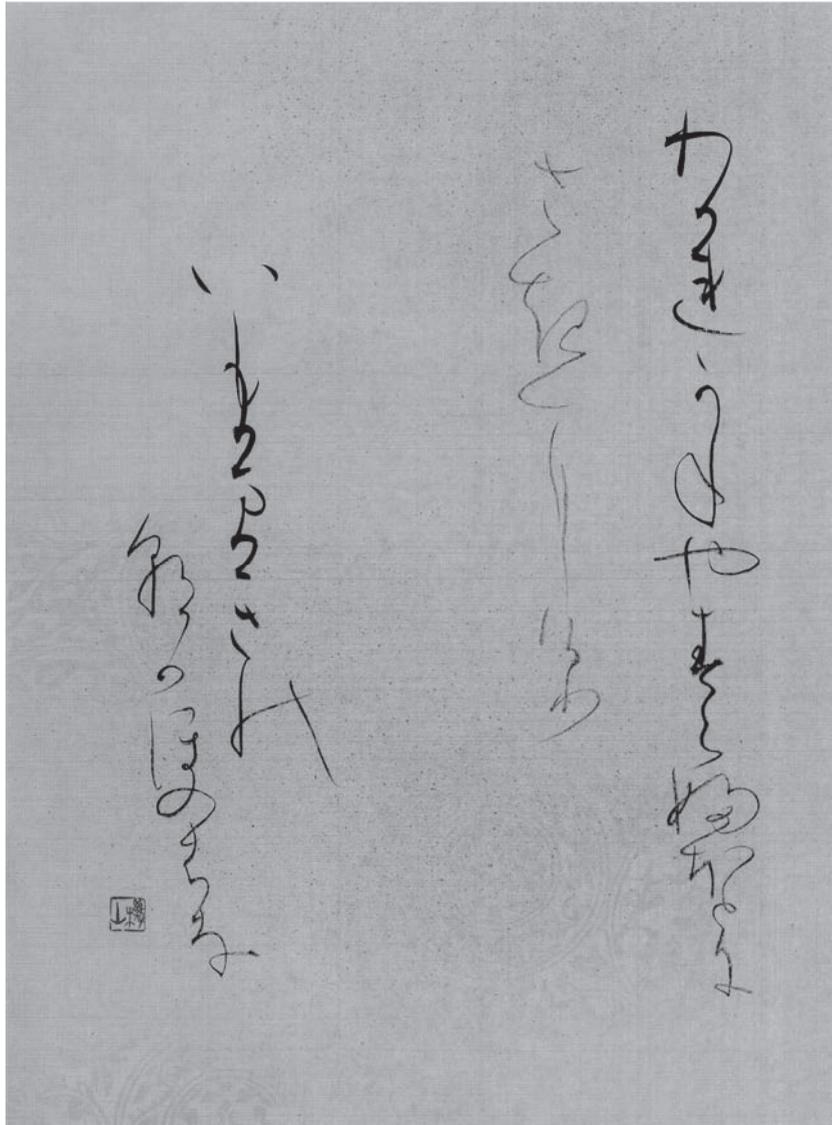
〔読み〕風清く人楼に倚る
〔大意〕風が涼しいので人は高い楼に上り、もたれている。

新入から1級まで（楷書）

須田一葉書

一般部毛筆かな課題

締切り 7月25日(必着)



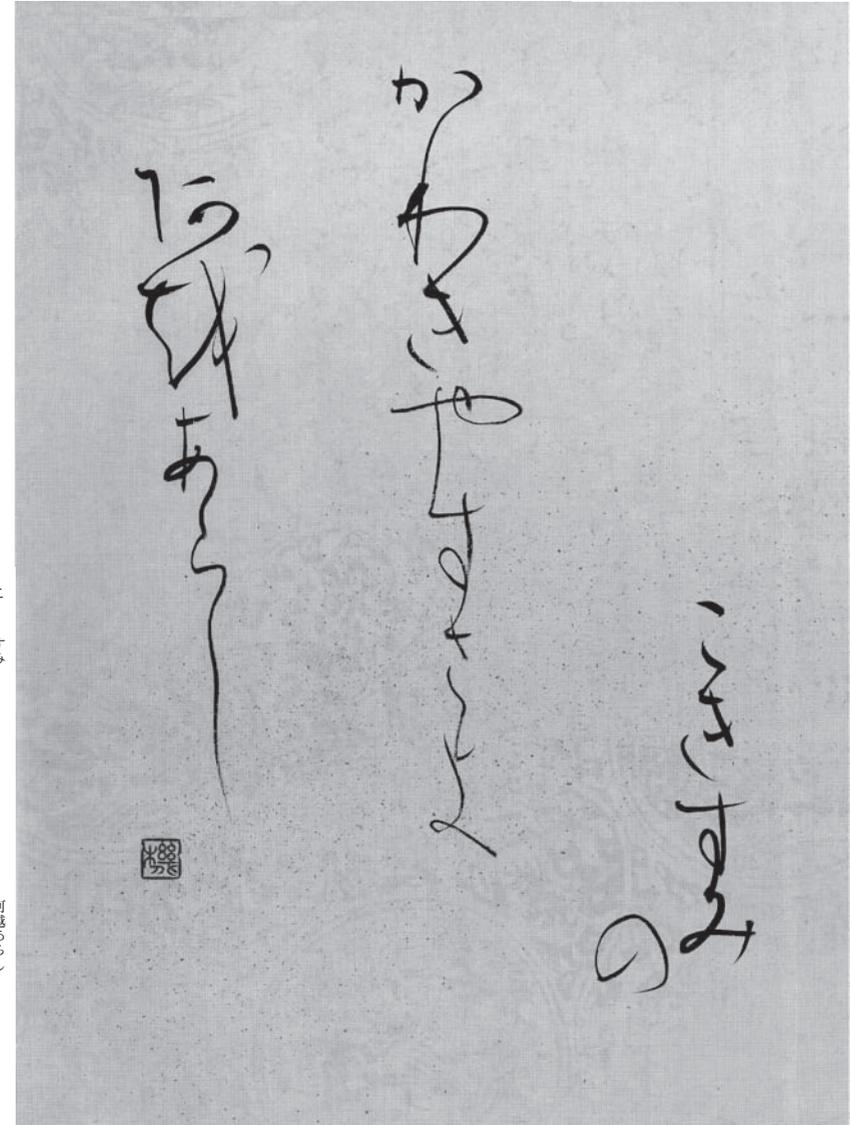
わ可連可年春
 別れかねやすら
 妹がまがきの朝がほの花

〔出典〕 八田知紀

〔歌意〕 夜明けとなり、別れられなくて、ぐずぐずしているうちに咲いてしまったことよ。妹の家の垣根の朝顔の花は。

準初段から師範まで

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



濃き墨のかわきやすさよ青嵐

〔出典〕 橋本多佳子

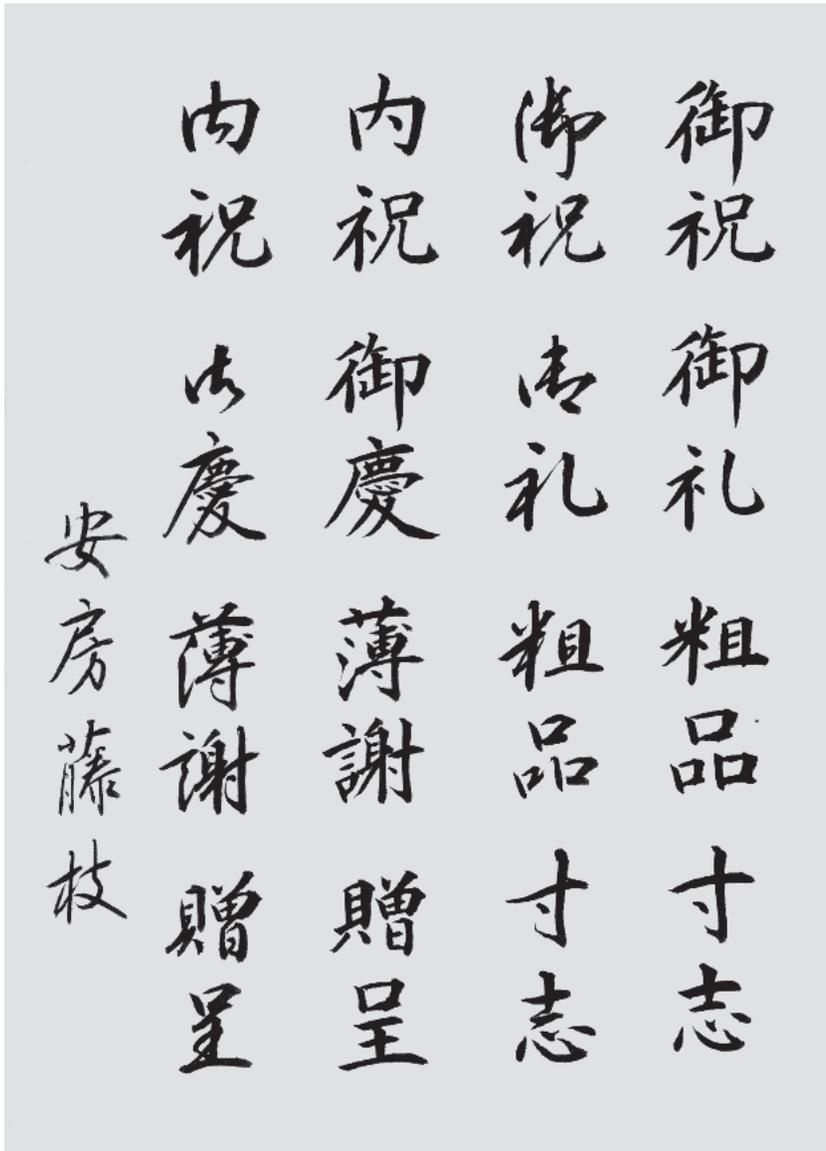
〔句意〕 あたり一面濃い緑である。書をしたためようと墨をするが、日中のさわやかな風がすぐ墨を乾かしてしまうのである。

新入から1級まで

浅井機山先生書

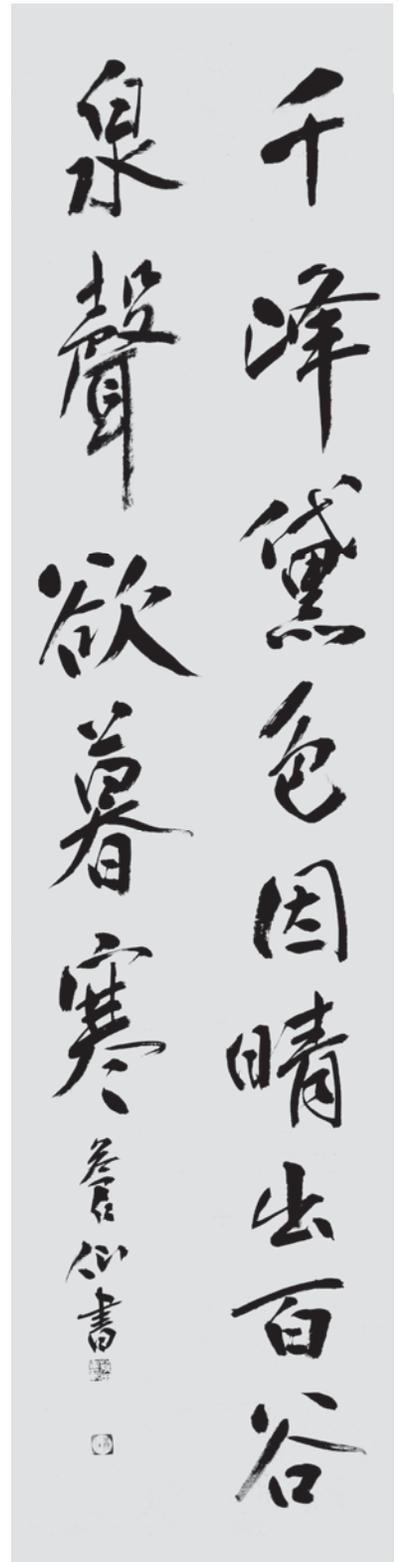
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 七月二十五日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙書

- ▼今回初めて、のし紙・のし袋の表書きの練習をします。右の語句を、楷書と行書の二書体で書いて下さい。
 - ▼書体は楷書で書くのが正式ですが、一般的には少しくずした行書で書いても失礼にはなりません。むしろ親しみがあっていいでしょう。
 - ▼書道を始めるきっかけの第一に「表書きをきれいに書きたい」があげられます。心をこめて丁寧に書きましょう。
- 〔条幅・細字作品の出し方〕
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
 - 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。
 - 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅解説〕平易な形に太細を意識しました。形は私の作例以外に古典、字典等からとり入れる事、大歓迎。それに自分なりのカラーで肉付けをして下さい。その場合、癖と個性の違いを師から教わる事が大切です。それが人様の心を癒す作であれば最上です。

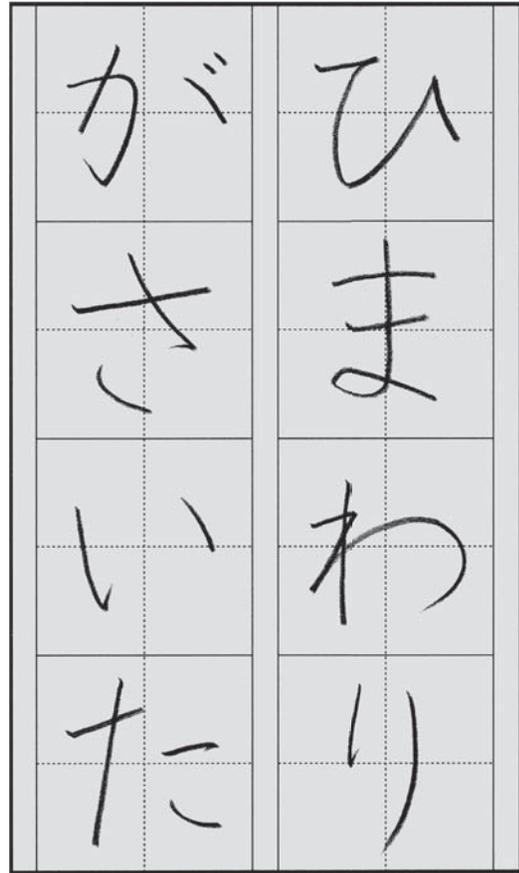
御祝 御礼 粗品 寸志
内祝 御慶 薄謝 贈呈

〔条幅解説〕平易な形に太細を意識しました。形は私の作例以外に古典、字典等からとり入れる事、大歓迎。それに自分なりのカラーで肉付けをして下さい。その場合、癖と個性の違いを師から教わる事が大切です。それが人様の心を癒す作であれば最上です。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

千峰黛色 因晴出
百谷 泉聲 欲暮 寒
〔大意〕多くの山のふ
か緑の色は天気の良い
ためにあらわれ、多く
の谷の水の音は夏の夕
暮れにも寒い。

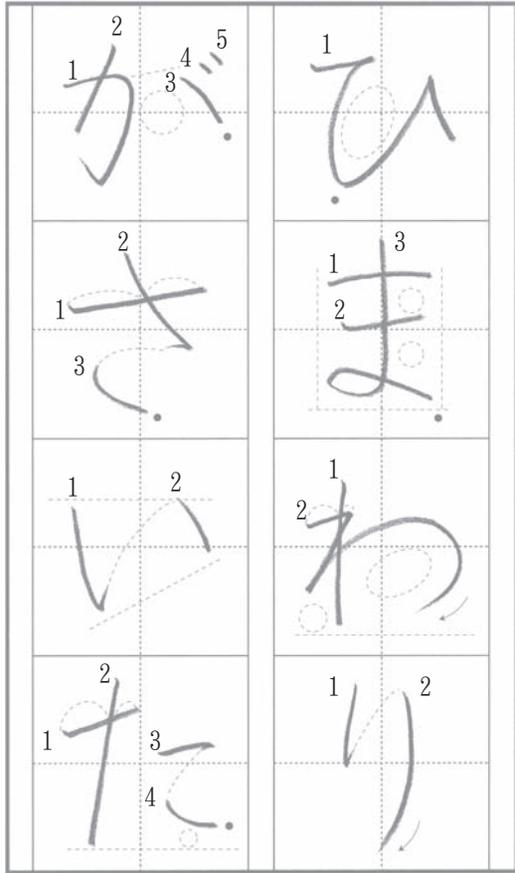
よ
う
年



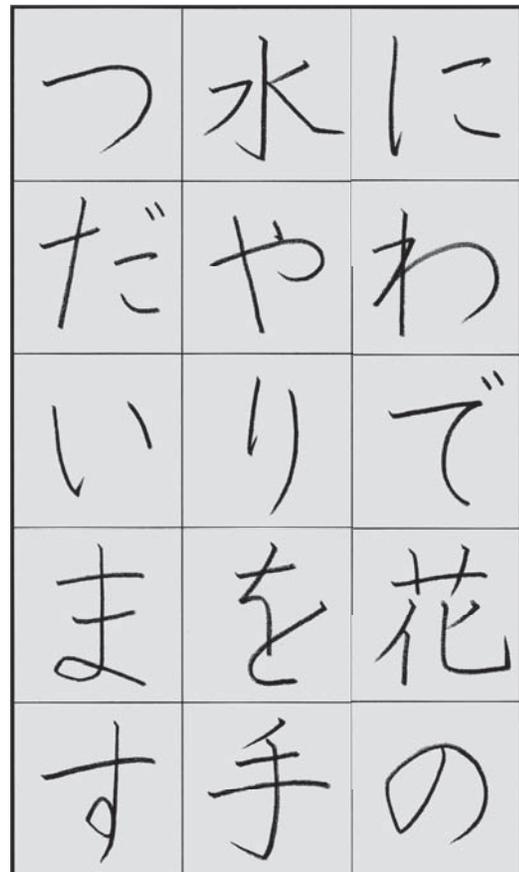
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)



小
一
年

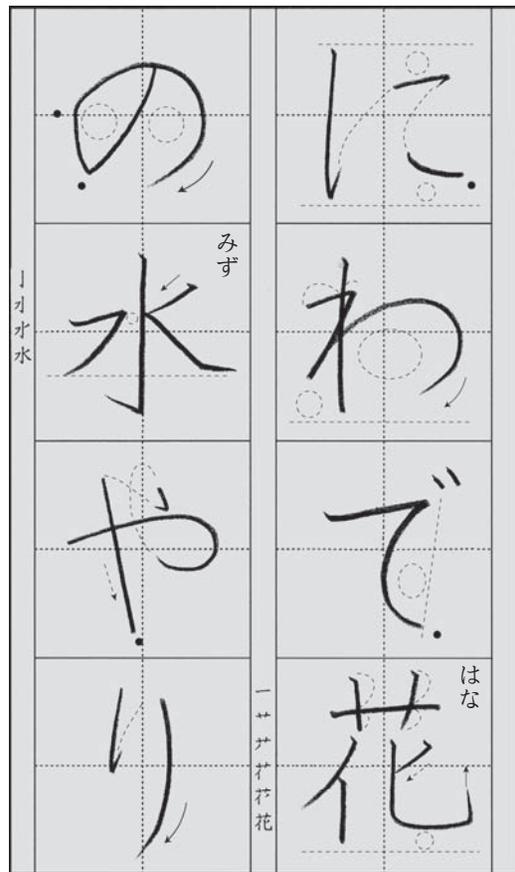


(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

準初段以上

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



小二年

く	ね	た
七	が	ん
夕	い	ざ
の	を	く
夜	書	に

準初段以上

※^{たなばた}七夕||単語としてこのように読みます。

新入〜1級

小三年

ラ	か	雨
ス	ら	戸
を	ま	で
守	ど	強
る	ガ	風

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

書	ね
く	が
七	い
夕	を

か	雨
ら	戸
守	で
る	風

〈用具 自由(黒色に限る)〉

リ 一ナ大太 利	タイ 太
ヨウ 門陽陽陽 用	ヨウ 陽
ねっ 熱熱熱熱 す	熱
る	を

新入1級

用	ル	太
す	ギ	陽
る	一	熱
実	を	工
験	利	ネ

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

ジ 時時時時 時	キン 禁禁禁禁 禁
カン 門問問問 問	シ 止止止止 止
ふ(える) 増増増増 増	ベン 勉勉勉勉 勉
	キョウ 強強強強 強

解説(よく見て習いましょう)

問	止	ゲ
が	で	一
増	勉	ム
え	強	の
た	時	禁

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

小	シヨウ ノ人	人	ジン
説	セツ イイ物物物	物	ブツ
熟	ジュク イイ物物物	像	ゾウ
読	ドク イイ物物物	思	おも(う)

解説(よく見て習いましょう)

説	い	人
熟	え	物
読	が	像
す	き	を
る	小	思

小六年

(全員)

劑	配	環
を	慮	境
選	し	問
ん	た	題
た	洗	に

中二・三年

(行書)

を	の	育
計	人	つ
算	口	た
す	密	地
る	度	域

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 さわ 澤 よし 幸 かず 寿 書

見 ^み	ホ	た	小 ^お	夜 ^{よる}					
え	タル	く	川 ^{がわ}	に					
た	ル	さ	の	な					
よ	が	ん	橋 ^{はし}	る					
		の	から	と					



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 7月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 にし 西 わき 脇 せい 聖 えん 園 書

マ	砂 ^さ	果 ^か	実 ^み	夏 ^{なつ}					
ー	糖 ^{とう}	汁 ^{じゅう}	を	み					
マ	で	と	し	か					
レ	煮 ^に	皮 ^{かわ}	ぼ	ん					
ー	て	を	り	の					
ド									
作 ^{つく}									
る									



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年
玉樹小華書





小三こさん、小五こご年
水野みづのの香竹かちく書

中三三
 問環
 題境

像人
 小六
 物

小六(中二・三年
 奥村暢之書

度物
 環像
 境密

中一
 密山
 度人口